

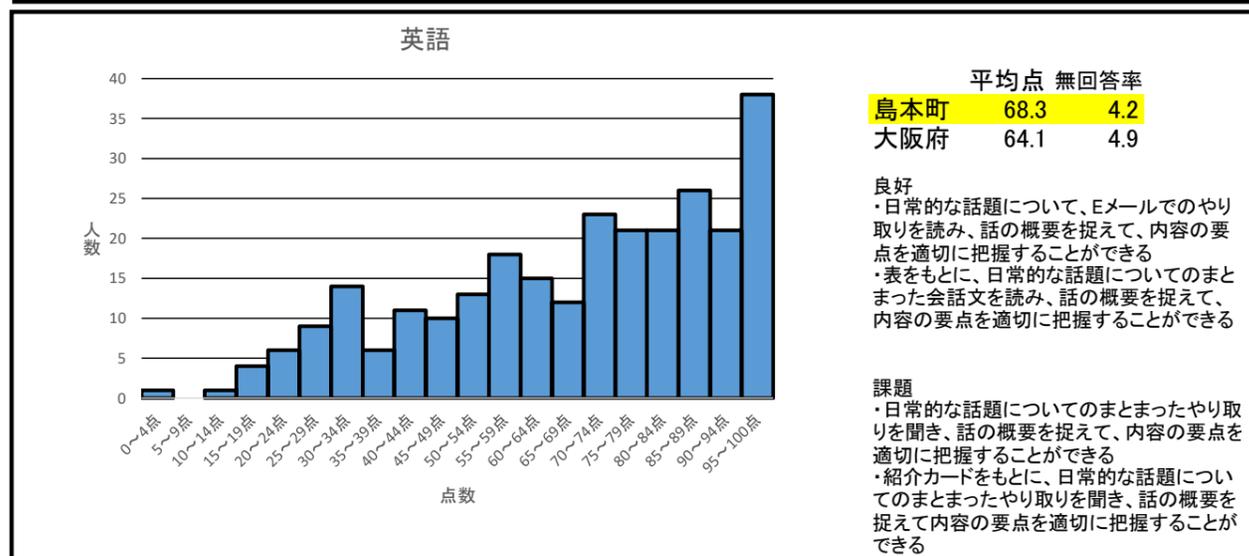
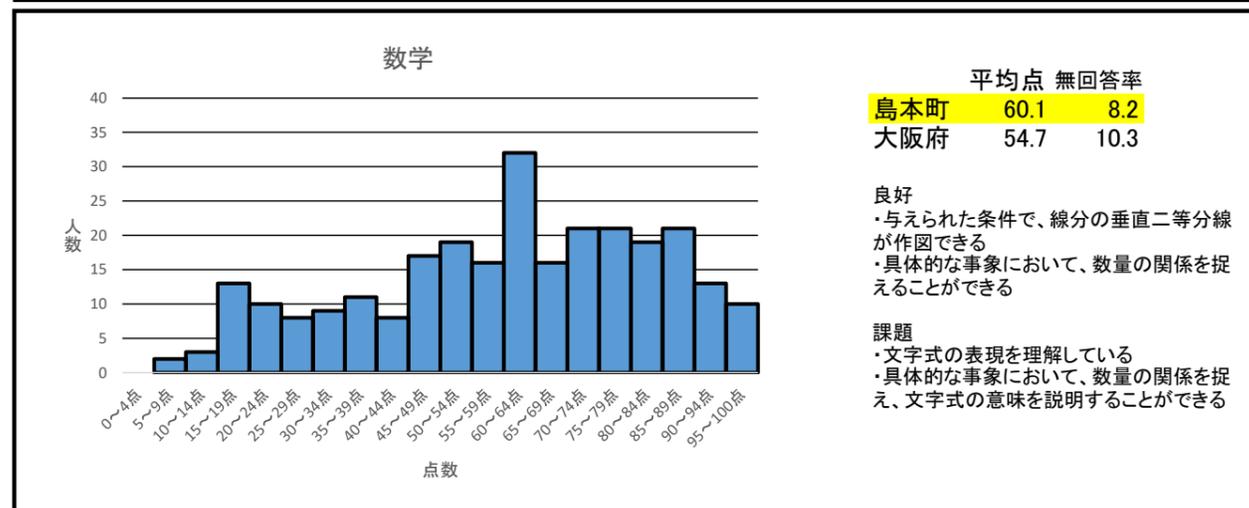
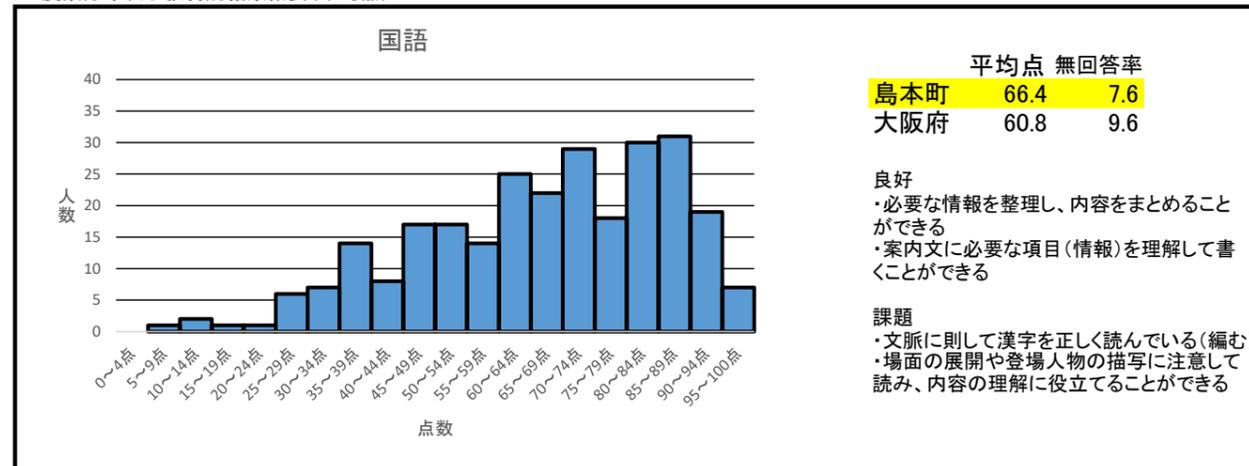
令和5年度大阪府中学生チャレンジテスト 中学1年生 結果概要

教育推進課

実施日時: 令和6年1月10日(水)
対象・内容: 第1学年(国語・数学・英語、各教科アンケート)

実施校数: 2校(府内468校)
実施生徒数: 270人(府内58, 517人)

1. 度数分布及び教科別結果概要(平均点)



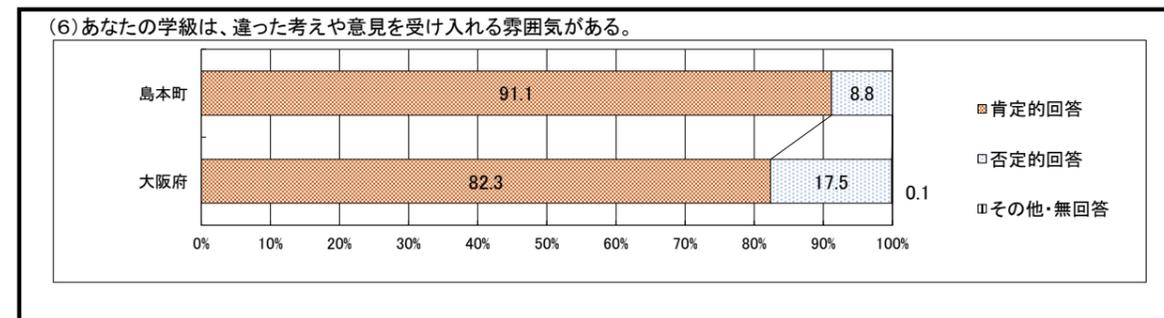
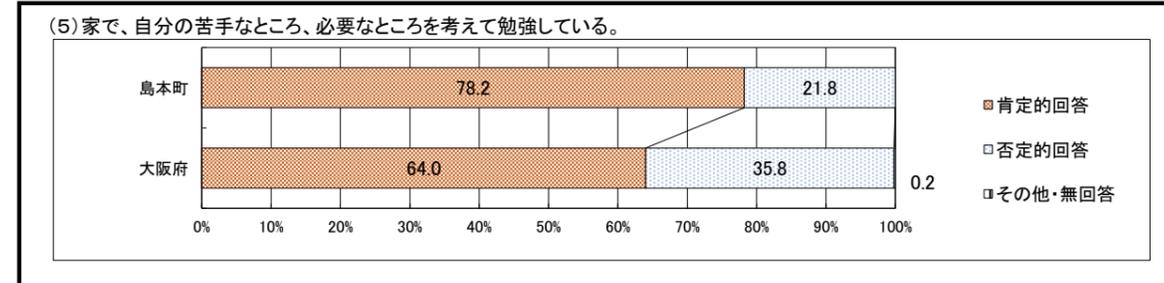
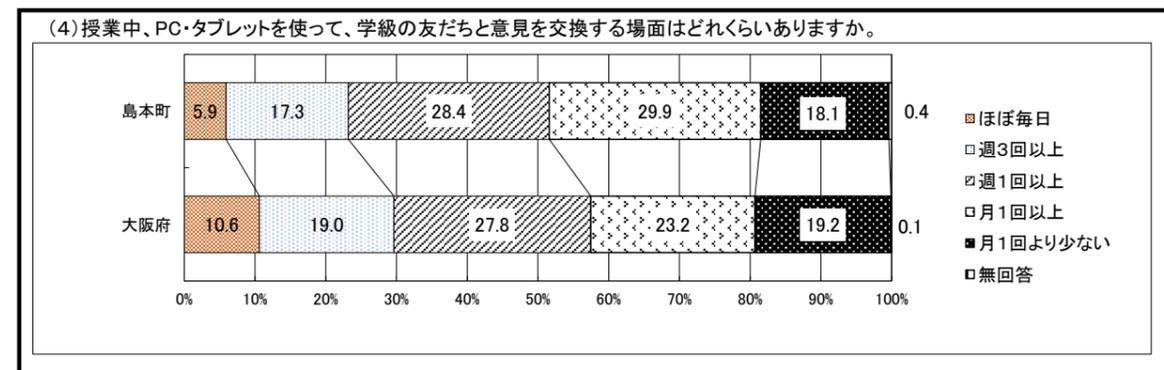
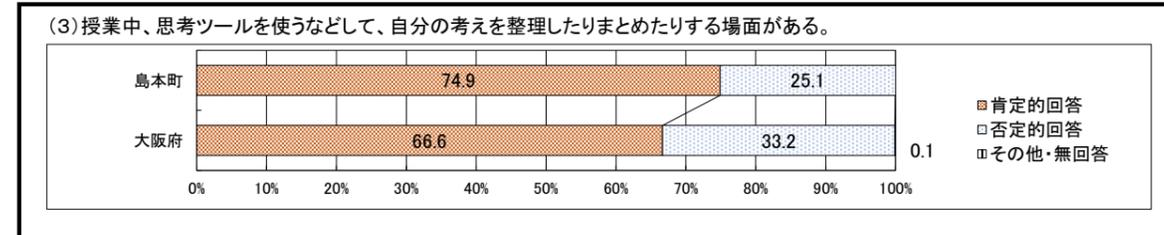
<結果概要>

国語: 問題形式では、すべての分類・区分で大阪府平均を上回る結果となったが、知識及び技能の観点における、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で大阪府平均との開きが小さくなった。

数学: 問題形式では、すべての分類・区分で大阪府平均を上回る結果となったが、学習指導要領の領域等上の「数と式」、「思考・判断・表現」の観点からの出題において、大阪府平均との開きが小さくなった。

英語: 問題形式では、すべての分類・区分で大阪府平均を上回る結果となったが、記述式で大阪府平均との開きが小さくなった。また、学習指導要領の領域等上の「聞くこと」の観点や記述式の問題形式でも、大阪府平均との開きが小さくなった。

2. アンケート(抜粋)



<アンケート結果について>

○(6)については、大阪府平均と比較して肯定的回答の割合が8.8ポイント高くなっている。周囲の受け止め状況が整っており、生徒が安心して意見を表しあえる環境は、中学校における学びの基盤と言える。今後も、高い肯定的回答割合を維持できるよう、集団づくりを進めていく必要がある。また、(5)については、本年度の2年生の同一設問に対する肯定的回答割合と比較して、肯定的回答割合が5.6ポイント高く、令和4年度の類似設問に回答した1年生と比較しても、14.9ポイント高くなっている。今後も、生徒が自らの課題に向き合い、様々な場面で学習の必要性を理解できるよう、指導を続けていく必要がある。

●一方で、(4)については大阪府平均と比較して、ICT機器の習慣的な活用について、使う頻度が「ほぼ毎日」及び「週3回以上」と回答した生徒の割合が6.4ポイント低くなっている。(3)で挙げられた思考ツールとしてのICT機器使用を取り入れ、意見交換や発表を活発にしていくことで、「思考・判断・表現」の観点で計ることのできる学力を伸ばさせていく必要がある。